



新たな時代のSI技術特集に寄せて

執行役員常務

江崎裕和

人々が豊かに安心して暮らせる社会の実現を目指して、新しい技術が次々に創出されています。その一方で、ビジネス基盤を支えてきた情報システムをゼロから開発する事例はほとんどなくなってきており、これからの時代の情報システムは、ビジネスの発展に合わせて成長させていくことが重要になります。

これまでの情報システムは、業務上のニーズに対応するために改修を続け、プラットフォームの耐用年数が切れたタイミングでアプリケーションを再構築するという手段をとってきました。しかし、このライフサイクルは、ハードウェアの耐用年数切れと同時に多額のコストが必要となるため、利用者に負担と不満を与えてしまう結果となりつつあります。

この解として「クラウドコンピューティング」が提唱され、ハードウェア寿命に拘束されないプラットフォーム環境が提供されるようになりました。その結果アプリケーションは、外部要因による作り直しではなく、ビジネスと同期を取りながら成長し続けることを可能にする手段が求められるようになります。

富士通は、こうした時代背景を読み取り、これまで蓄積してきた技術、ノウハウ、ツールに最新の技術を取り込みながらSI技術を強化してきました。今後も、1987年に発表した開発技術やツールの総合体系「SDAS (System Development Architecture & Support facilities)」を進化させ、システム構築の標準プロセス、要望に応じていつでも利用可能な開発環境、さらに現場に散在している業務ノウハウを組織的に蓄積・最新化・流通する仕組みを取り込んでいきます。これにより、ビジネスと同期を取りながら成長し続けるアプリケーションの実現を可能にし、ソリューションビジネススタイルの変革を推進してまいります。

このように富士通は、お客様の「今のビジネス」を大切にし、そこからの飛躍を可能にする施策を提供します。そして、今後も新しい時代を先取りする強い技術でお客様のビジネスに貢献していきます。本特集号では、これらの新しいSI技術の一端を、「業務・システムのライフサイクル」「クラウド・インテグレーション」「SE基本ワークスタイル」というキーワードに沿ってご紹介します。富士通は、このような技術と人の両面で常に進化を続け、「shaping tomorrow with you」というブランドプロミスのもと、お客様とともに、ICT活用による新しい時代のビジネスの創出に貢献してまいります。